

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	家電量販店（地区統括部長）	・トリノオリンピックやサッカーワールドカップ等のスポーツイベントに加えて、地上波デジタル放送の試験放送が来年6月に開始されることから、薄型テレビの需要が加速する。
	やや良くなる	百貨店（役員）	・12月としては20年ぶりの大雪と低温という気象条件はあるが、年末までに前年比100%以上の売上の期待が持てる現状から、ようやく底を脱した感があり、今後についても良くなる。
		スーパー（店長）	・厳しいながらも既存店がまずまずの状態を保っており、販促活動を行うことで客の動きが良くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・大規模な工事需要が見込まれるため、工事関係者の来店により売上が増加する。
		家電量販店（店員）	・オリンピックがあるので、テレビやDVDレコーダーなどの売上が増加する。
		高級レストラン（スタッフ）	・1月後半から2月にかけて、地域で食のイベントが開催されるため、観光客の利用増加が期待できる。
		観光型ホテル（経営者）	・ツアー客は引き続き順調な入込状況にある。個人客は家族客を中心にリピーターが戻りつつある。ただし宿泊料、付帯収入ともに伸び悩んでいる状況にあり、収入全体が増加するかは不透明な状況である。
		タクシー運転手	・今年は雪が非常に多く、交通手段が選択できないという影響もあるかもしれないが、若干売上が増えてきている。ライバル会社も同様の傾向にあり、今後についても良くなる。
	変わらない	百貨店（売場主任）	・12月に入り、寒波の影響で非常に気温の下がる日が続いているが、この状況が1月以降も続くことから、引き続き防寒物のコート、肌着、雑貨類が売れる。
		百貨店（売場主任）	・競合店との競争が激しくなっており、郊外型ショッピングセンター等への流出も今のところ歯止めがかからない状態にある。今後も売上は各店で分散されていく。
コンビニ（エリア担当）		・クリスマスケーキや年末の予約商品などは好調だったが、日常的な商品については低価格志向が続いている。特別な支出には財布のひもが緩んできた感じはあるが、全体としては依然として引き締めているように感じる。	
コンビニ（エリア担当）		・全体的には景気はやや上向きに見えるが、北海道は土地柄、灯油の需要が多いため、燃料価格の高騰が消費を抑制する。冬場が終わった後に景気の動きがはっきりとみえてくる。	
観光型ホテル（スタッフ）		・1月の予約件数は前年を上回っているが、最近では直近になって予約が入る傾向が強くなり、2月以降についてはまだ読み切れない。	
旅行代理店（従業員）		・客の購入単価が一向に上がらない。インターネットでの直販に押されてる状況である。	
タクシー運転手		・12月の忘年会シーズンにおいても、すすきののにぎわいはそれほどではなかったため、景気回復にはまだまだ時間がかかる。	
タクシー運転手 美容室（経営者）		・乗客から景気が回復するような話は聞こえてこない。 ・売上に月々の上下はあっても、3か月を平均するとほぼ前年と同じような売上が続いているので、今後も大幅な変動はない。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・税負担の見直しが打ち出されていることから、更に支出を引き締める傾向となり、景気は悪くなる。	
	スーパー（企画担当）	・大型複合商業施設の出店が相次ぎ、オーバーストアの状況に更に拍車がかかっている。業界再編の動きも加速されているが、当面は現有の各企業が体力勝負の極端な価格競争を続けざるを得ない状況となっている。	
	衣料品専門店（店長）	・寒さが本格化しており、また雪もかなり多いので、北海道においては灯油の値上がりの影響が懸念される。また年配者は医療費の負担増を心配している人が多く、景気はあまり良くはならない。	
	乗用車販売店（従業員）	・現状では良い話が何もなく、客にも変化の兆しが全くみられない。	

		高級レストラン（スタッフ）	・税負担の見直しで会社員は給料の手取りが減ることから、特にランチの外出が手控えられる。札幌では味の良さで評判だった個人経営のレストランや洋菓子店なども閉店に追い込まれている。地方においても、今後、支庁制度の見直しや公務員給与の引下げに伴い、飲食業界が大打撃を受ける。
		旅行代理店（従業員）	・来店や電話での申込状況が振るわず、先行受注も伸びない。インフルエンザ、トリノオリンピックなどの影響で、自宅や近場でのレジャーを志向するようになり、しばらくは我慢の日々が続く。
		旅行代理店（従業員）	・国家予算の規模縮小、年金の減少や医療費用の増大等を見越し、資産の目減りを防ごうという様子がかがえる。消費が冷え込む可能性を感じている。
	悪くなる		
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送業（支店長）	・燃料費等の不安材料はあるものの、現在の価格が維持され、また関東地区の経済状況がこのまま続けば、それに引きずられる形で道内メーカーも受注を維持できる。物流物件の引き合いもそれに連れて増加する。
		その他企業〔コンベンション担当〕（従業員）	・海外客及び関東からの旅行者の動きが好調であるものの、道内客の動きが鈍く感じられる。
変わらない		金融業（企画担当）	・設備投資や住宅着工も一巡する。観光については、東南アジア客の増加や知床効果などで前年を上回るが、宿泊単価などは伸び悩む。個人消費については、公務員の給与削減などから弱めの動きとなり、灯油価格の上昇も家計を圧迫する。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・年度末を迎えることで何らかの動きが出てくるが、長期的な設備投資計画の話が聞こえてこないことから、少額的な投資のみにとどまる。
		その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	・景気停滞感は依然として改善されない。建築工事や鋼製橋りょう工事の大幅な増加が見込まれていない現状にあり、造船の受注増加や大型店舗の建設、設備投資による工場建設などが一部あるものの、北海道全体の金属製品製造業、金属加工業の底上げにはつながらない。
	やや悪くなる	輸送業（営業担当）	・船社の運賃値上げによる引受料金との逆ざや現象が今後も続く。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・主力である道内の工事が、冬期間で全体的に減少することに加えて、補正予算の執行が4月以降になることが予想されている。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・小売、飲食、サービス業などの個人消費にかかわる業種の多くで求人の出稿が活発になってきている。この傾向は今後も続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・企業に人手不足感が現れていることから、全体としては良くなる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・短期的な雇用確保から新年度へ向けた動きが強化される。2月下旬以降の正社員の求人動向に現れてくる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・北海道の経済状況に景気回復基調はみられないが、関東圏の動向をみながら、新年度以降への対応を図る企業がみられることで、求人を行う企業が多くなる。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・現在のところ、地域にインパクトを与えそうな大型の事業計画もなく、地域人口も減少していることから、労働市場が活性化されるほど、人材の需要が高まる要素はない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・来年度の国家予算が内示されたが、北海道開発局の予算が削減された結果、土木建設業の淘汰がますます進み、雇用にも大きな影響を及ぼす。
		職業安定所（職員）	・新規求人申込の理由は欠員補充が主であるが、その件数も減少しており、企業の採用意欲が感じられない。
		職業安定所（職員）	・派遣・請負求人や更新求人が増加傾向にあるため、充足率が昨年よりも低下傾向にあり、結果として有効求職者が増加している。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・今月は年末の特需要員があったため、その反動から向こう3か月は今月より悪くなる。
悪くなる	-	-	